

特別シリーズ①

to the future...

磐田の未来へ

磐田市の未来へ向けたまちづくりをシリーズを通して紹介します。

第1弾は「教育」。

目まぐるしく変わる社会状況の中、子どもたちがたくましく成長するために、学校のあり方が問われています。磐田市の目指す「たくましい磐田人」を育てるため、市が取り組む学校づくりを紹介します。

新たな学校づくりの第一歩

ながふじ学府一体校

未来に向かって

〜新時代に向けた学校づくり〜



子どもの可能性を伸ばす

目 まぐるしく変わる社会の変化で、子どもたちはこれまで経験したことのない未来を迎えようとしています。その中で、子どもたちがたくましく育っていくためには、これまで以上に「人と人との深いつながり」が必要になってきます。

市では、小学校と中学校のつながり、子ども同士のつながりを深める「小中一貫教育」や地域とのつながりを育む「コミュニティ・スクール」を導入し、子どもたちの健全育成に取り組んできました。そして、これらをさらに発展させた、未来を見据えた学校づくりを進めています。

その一つが「学府一体校」です。磐田市では小中一貫教育を行う中学校区を単位とした学校群を学府と呼び、学府内のつながりをより深めることで子どもの可能性を伸ばしていきます。



学府一体校推進室
山本 敏治

小・中学校のつながり
子どもたちのつながり

小中一貫教育



地域とのつながり

コミュニティ・スクール



さらなる発展でより強い、より深いつながりを育む

人×人

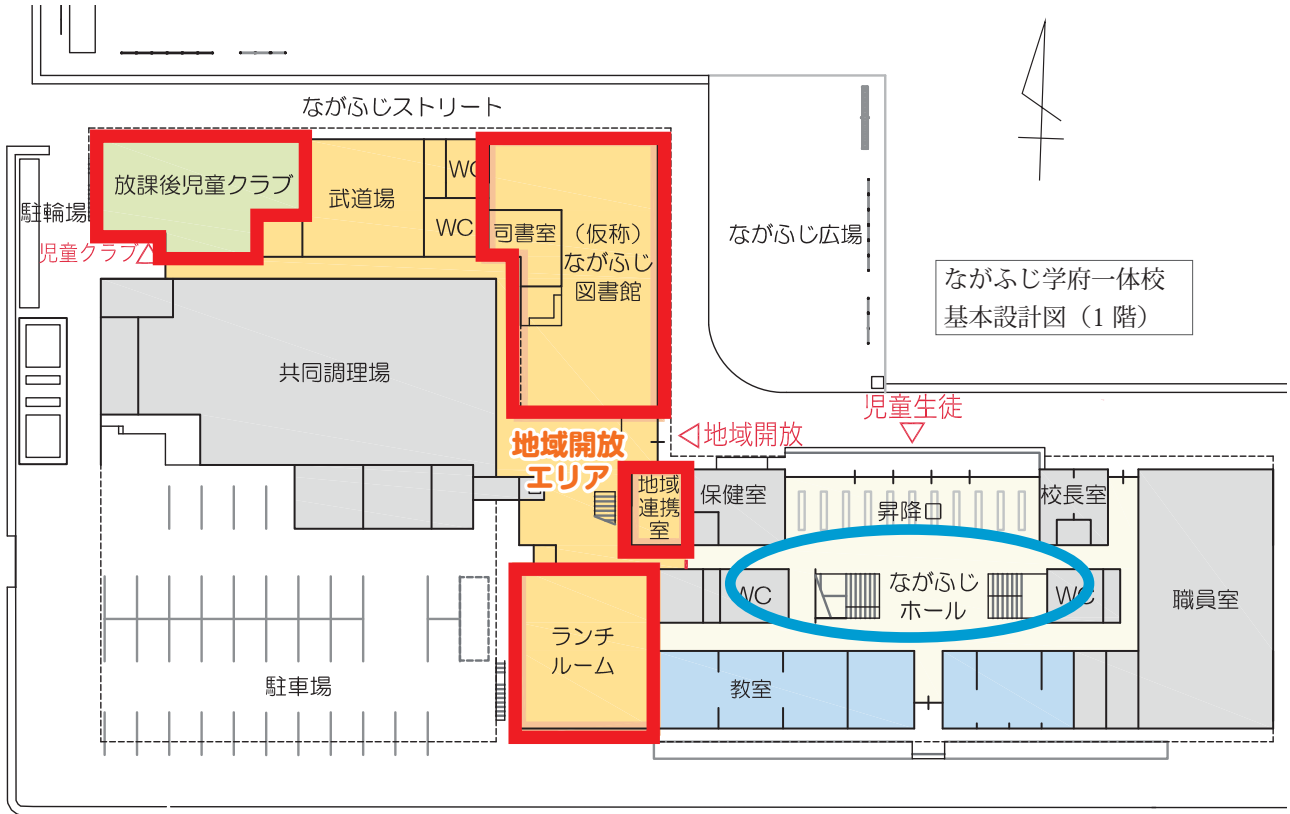
学校×地域

磐田市の目指す

新たな学校づくり



新たな学校づくりを実現する " 学府一体校 " のナカミ



地域とのつながりを深める
社会教育施設の融合

子どもたちのつながりを深める
開放的で居心地の良い空間

また、児童生徒を迎え入れる広い昇降口や「ながふじホール」を代表とする空間は、さまざまな活用ができるように広さや吹き抜けを変え、学年を超えた子どもたちのコミュニケーションが自然と生まれるように考えました。

人と人、学校と地域とのつながりを育む空間の実現を目指して「学府一体校」の整備に取り組んでいきます。

特徴的な点は、「(仮称)ながふじ図書館」や「地域連携室」、「ランチルーム」といった地域の方も自由に利用できる地域開放エリアを設けた多機能型学校となっていることです。

「つながり」を育む空間を

磐 田市の未来への学校づくりの第一歩となるのが、豊田中学校区で平成33年4月の開校を目指す市内初の学府一体校「ながふじ学府一体校」です。



学府一体校推進室
原 隆秀

ながふじ学府一体校にみる

"多機能型学校"のシクミ

多機能型学校って？

従来の学校に備えられている子どもたちの教育のための"学校教育施設"だけでなく、図書館といった"社会教育施設"のほか、子育て、福祉などのさまざまな施設が併設されることで、地域住民と子どもたちがつながり、地域交流を活性化する新たな地域の拠点の一つとなる学校。



図書室から図書館へ

(仮称) ながふじ図書館

子どもたちだけでなく、地域住民が自由に利用できる地域に開かれた図書館

コミュニティ・スクールの拠点に 地域連携室

地域住民が気軽に立ち寄れる場所として、地域と学校を結ぶ窓口

交流を活性化させる ランチルーム

給食だけでなく、集会や他学校児童との交流、地域住民の活用なども可能なエリア

働く保護者の支援に 放課後児童クラブ

放課後や長期休業期間に保護者が就労などで不在の子どもたちに遊びや生活の場を提供



広がる学府構想

学府一体校の先駆けとなる「ながふじ学府一体校」の基本設計が出来上がりました。そして、次に学府一体校の整備を進めようとしているのが「向陽学府」です。

学府一体校の形態は地域により異なりますが、その基礎には人と人、学校と地域を結ぶ「つながり」を育む学校にしたいという思いがあります。向陽学府一体校も地域や保護者の皆さまの考えや意向を尊重しながら進めていきます。これから先の誰も経験してきたことのない社会を、子どもたちがたくましく生きていくために、新たな学校づくり・地域づくりが今求められています。「たくましい磐田人」を育てていくために、未来に向かって取り組んでいきます。

エアコンを設置します

市では、近年の夏期の異常な気温上昇に対して、子どもたちの健康維持や教育環境を改善するため、**市内の全公立小中学校にエアコンを設置**します。

